

令和2年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 **最終**)

片山中学校区 校番 12

学校名 片山中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学び	主体的に学ぶ生徒の育成	思考力・判断力・表現力の伸長	<p>○2学期末試験の活用型の問題の正答率は全教科を平均すると57%(1学期末61%)であった。活用型の問題の正答率は全教科で出題している。正答率は各問題の難易度にも左右されるので一概に活用力が落ちたとは言えない。</p> <p>○2学期末の学校評価アンケート(生徒用)において、「試験期間の家庭学習時間はどれくらいですか?(放課後や塾での自習学習を含まない)」の項目において「2時間以上」と回答した生徒が58%であった。1時間以上と回答した生徒は89%なので、家庭学習の習慣は定着しつつあるが、主体的に学習する量が少ない。</p>	<p>○1月の研修で、活用型の問題について研修する。授業での学習内容と活用型の問題をどのようにつなげていけばよいか研修していく必要がある。</p> <p>○「授業の振り返り-家庭学習(復習・予習)」とつながるような取り組みが必要である。家庭でどのような学習をすればよいか、各教科で指導していく必要がある。</p>
		<p>貴</p> <p>「考える授業」づくり</p>	<p>○コロナ禍で班活動などのグループ学習が制限される中、教員の取組の工夫で一年間を通して「学び合う授業」を展開することができた。(89%、90%)工夫として席を離れた状態で班の形をつくったり、廊下も使った班活動などの環境の工夫、一人の意見から全体でさらに深く考えさせたりと発問の工夫があった。</p> <p>○授業の終わりの「振り返り」に関しては目標値を達成できなかった。(77%、73%)教科によっては時間が足りずに宿題になったり、次時に振り返りを行ったりと授業の最後にまとめの時間として振り返りを行うことができなかった。</p>	<p>○今まで行ってきたことを土台として、新たな「学び合う授業」、「考えさせる授業」をそれぞれの教員で創造して実践していく。さらに実践したことを学年や学校全体で共有してよりよいものにしていく。</p> <p>○確実に授業の終わりに振り返りができるように、それぞれの教員が授業の時間配分を考えて授業を行う。教員同士で振り返りの取組を共有してよりよいものにしていく。</p>
豊かな心	礼節を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成	礼節・規範意識の向上と、他者との協働	<p>○2学期は4つの委員会がボランティア活動を実施した。感染対策のために、時期や内容を工夫し、生徒が安心して参加できる配慮をした。参加生徒は140名であり、生徒アンケートにおけるボランティアに関する肯定的評価の割合は65%であった。清掃活動では80名が参加をし、放課後校内清掃に大きく貢献した。また、ポスター作成では60名の生徒が各自時間を設け、作品を制作し、自分の思いを伝える取組ができた。参加率では、例年行われる清掃活動は参加者が多く見られたが、ポスター作成については学年、クラスごとで参加人数に偏りが見られた。</p>	<p>○今後も感染症対策をふまえ、段階的に取組ができるよう配慮し工夫を行っていく。そのために取組内容や実施の方法等、ボランティア精神の向上に向け、生徒会執行部が校内の様子を把握する中で、どのような活動が良いかなど主体的に考えさせる場面も大切にしていこう。</p>
		<p>貴</p> <p>地域の課題に向き合う生徒</p>	<p>○予定していたことはできなかったが、新たな実践として1学年では「地域の方を招聘した備蓄食料の取組」、2学年では「避難所HUG(避難所運営を皆で考えるゲーム)の取組」、3学年は「陸上自衛隊の方々を招聘した防災への取組」を行うことにより、地域貢献への意欲は生徒アンケートで83.6%で、地域を良くしていこうとする意欲は高い。</p>	<p>○状況の変化を素早く察知しながら、各学年で取組のまとめ(のぼりじ)などを実施し、生徒自身に主体的に考察・表現させ、的確に評価していくことで、地域貢献への意欲をさらに高めていく。</p>
健やかな体	心身ともに健康な生活を主体的に構築できる生徒の育成	主体的な生活改善	<p>○6月1回目の調査より、3年生の約半数は睡眠時間が8時間位摂れており、ほとんどの生徒は11時以降に就寝し、7時頃に起床している。目標時間の設定は半数はできていた。1・2年生については、睡眠インストラクターの講演を聴いて、早寝早起きができているが6月と比べて厳しく設定したと思われる。</p> <p>○朝食や排便については、少し上回った。ただし1年生の朝食については、指導が1学期と早いので、忘れがちになっていると思われる。</p>	<p>○生活リズムを整えていくには、家庭の協力が必要である。今年度は1・2年生だけ睡眠のとり方の話を聞き、朝食バランスについては栄養士に聞いたが聞いたことを家庭に持ち帰り実践していくように委員会活動を中心に行う。</p>
		主体的な体力向上	<p>○学校再開後、生徒の体力低下が著しく、体力向上の取組は非常に困難であった。例年より長い時間をかけ、工夫して行うことでハンドボール投げは全学年が県平均を上回り、良い成果が得られた。しかし、走運動には特に制限が多く、県平均を上回ったのは2学年男女と1学年男子のみであった。</p>	<p>○ハンドボール投げについては、長い時間をかけることで成果が上がった。来年度も同様の取組を行う。50mについては、異チャレンジマッチの取組の時期を早めること、下半身の筋力トレーニングを実施することの2点を行う。</p>
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	生徒と向き合う時間の確保	<p>○会議の時間短縮、業務内容の精選(ミーティングシートの活用等)を継続して行っているが、前回より達成度が低くなっている。「生徒と向き合う時間の確保」について先生方に実感がないことが大きな課題である。業務効率化について再検討が必要である。</p>	<p>○これまで取り組んできた内容の継続を図りながら、「生徒と向き合う時間の確保」が先生方に実感できるように、業務内容の精選等について今一度見直し・検討をしていく。(企画委員会等の内容の見直し)</p>
		長時間勤務の削減	<p>○部活動休養日とリンクさせた定時退校日の設定は継続して行っている。達成度はほぼ前回と同じである。学期末(評価評定・懇談会の準備等)に時間外勤務が多くなる傾向がある。</p>	<p>○学期末の業務について、早めに計画、準備等行えるように、行事を考える時から準備を行う。業務が、一定の時期に偏らないように、工夫を行う。</p>